



数年前「水俣

病」の報道写真で  
写真家としてデビ  
ュー、その後、四  
日市の公害や韓国  
の報道などではな  
ばなしい活躍をし  
ている写真家・桑  
原史成さんが、四  
年ぶりに来熊し  
た。「その後の水  
俣病」（アサヒカ  
）とラ七月号掲載予  
定）を撮影するた  
めという。

「韓国から帰っ  
て、国内もの第一  
作となることやはり

「水俣」へ帰って  
きます。何といっても水俣は  
私にとっては、写真家として  
の出発点ですから」

昨年一年間の「韓国報道」  
に対して、桑原さんは本年度  
の日本写真家協会賞をうける

# 水俣病その後を撮影

報道写真家

桑原史成氏

ことになっている。同賞は昨  
年はベトナム報道で岡村昭彦  
氏が受賞している。写真家と  
して文字どおり第一流にのし  
あがったわけだが、四年ぶり  
の桑原さんには「大家」らし  
さなどみじんもない。人なつ  
こいえがおからは、情熱一本



で無心に水俣漁民の中へとび  
こんでいった当時の「書生」  
ぼさ」が消えていない感じ。

「水俣での最後の取材は三

十七年の水俣争議のころです  
から、四年ぶりの水俣です  
が、実に複雑な気持ちです  
ね。こんどは、その後の水俣  
病」ということで、リハビリ  
テーション（社会復帰）を中  
心に、患者の「希望」をとる  
うと思ってきたんですが、病

院を訪れると、かつて取材し  
た患者たちが「なつかしい人  
ねエ。治療ばつづけとるばつ  
てんちいともよろならんも  
んねエ」「あんたはえらくえ  
ろうなんなはったなア」  
どこへ行っても暖かく迎えて  
くれたけれど、一日目はどう  
してもカメラをとりだすこと  
ができませんでした」

今月はじめから四、五日水  
俣で取材、福岡、長崎へと  
び、再び水俣へとつ  
て返してとりまくつ  
ている。「熊本はほ  
くの第二のふるさと  
です。そして「水  
俣」は写真家として  
の僕のバイブルで  
す。困難につきあた

った時はいつでも「水俣」を  
とったときの初心、あの素材  
なビューマニズムを思い出す  
んです」という。

◇くわばら・ふみあき 昭

和十一年島根県生まれ。三十  
七年写真展「水俣病」で第六  
回写真批評家協会新人賞受  
賞。ことし六月一日の写真の  
日に写真家協会賞受賞式があ  
る。